

株式会社白滝有機産業

2022 年度 環境経営レポート

(対象期間: 2022 年9月1日～ 2023 年8月31日)



認証番号0002104



発行日 : 2023年9月12日
改定日 : 2024年1月8日

目 次

項 目	ページ
あいさつ	3
環境経営方針	3
組織の概要	4
事業・製品の紹介	5
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	5
許可の内容	6
廃棄物処理フロー	6
主な環境負荷の実績	7
環境経営目標及びその実績	8
環境経営計画の取組結果とその評価	9
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無	12
緊急事態対応訓練	12
代表者による全体の評価と見直し・指示	13
これまでの環境活動の紹介	13

製品紹介

バイオ有機



ハイブリッドスーパー

主に動植物性残さと剪定枝などの木質系副資材からできる堆肥です。
ガーデニング、花木、野菜・果樹類、ハウス生産物等幅広く使っていただけます。
(岡山県エコ製品認定 岡エコたい肥 第1号)



ハイブリッド緑化用

主に動植物性残さと剪定枝などの木質系副資材からできる堆肥です。
ガーデニング、花木、野菜・果樹類、ハウス生産物等幅広く使っていただけます。



主に汚泥、動植物性残さと剪定枝などの木質系副資材からできるたい肥です。
一般造園関係、芝、ガーデニング、花木などに向く 堆肥です。

I. ごあいさつ

環境経営方針

<環境経営理念>

株式会社白滝有機産業は、われわれの日常生活や企業活動から発生する有機性廃棄物を高品質の完熟たい肥や炭化物に変え、環境にやさしい有用資源として社会に還元することを通じて、資源循環型低酸素社会の構築に貢献します。

<環境保全への行動指針>

1. 具体的に次のことに取り組みます。
 - ①受託処理量の安定的確保
 - ②環境配慮型製品の製造・販売の促進
 - ③電力・燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減
 - ④廃棄物の削減
 - ⑤水使用量の削減これらについて環境目標・環境経営計画を定め、定期的に見直しを行い継続的な改善に努めます。
2. 近隣住民の不安を解除します。
3. 環境関連法規及び当社が同意した事項を遵守します。
4. 産学連携により、需要家のニーズに合ったたい肥造りに努めます。
5. 従業員に対し、環境教育を実施し、環境保全に関する意識の向上を図ります。
6. 地域社会と積極的にコミュニケーションを図り、地域に密着した事業活動を行い、地域の環境保全に努めます。
7. 全従業員に対し、この行動指針を周知徹底させるとともに、社外にも公表します。

制定日：2017年6月1日
改定日：2022年7月21日

代表取締役社長 中村 雅亘

II. 組織の概要

更新日：2023年9月12日

- (1) 名称及び代表者名
株式会社白滝有機産業
代表取締役社長 中村 雅亘
- (2) 所在地
本 社 〒701-1221 岡山県岡山市北区芳賀5316番地
TEL：086-286-9035 FAX：086-286-9036
工 場 〒709-4251 岡山県美作市白水1303番地
TEL：0868-75-0378 FAX：0868-75-2610
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
責任者 吉井 佑樹 TEL：0868-75-0378
E-mail：factory@shirataki-bio.co.jp
- (4) 事業内容
産業廃棄物処分業（中間処理）、肥料製造・販売業

(5) 事業の規模

法人設立 平成3年3月10日
資本金 2000 万円
売上高 42770 万円（2022年度）

2022年度実績			
従業員	14名		
延べ床面積	38,696㎡		
受託した産業廃棄!			
収集運搬量	0 t		
中間処理量	26,945 t	うち再資源化量	26,945 t
最終処分量	0 t		
中間処理後の産物の処分量	0 t	うち再資源化量	0 t

車両	台数	備 考
10tダンプ	1 台	いすゞ
7tローラーオン	1 台	いすゞ
4tダンプ	1 台	いすゞ
4tユニック	1 台	いすゞ
合計		4台
重機	台数	備 考
ホイローダー	6 台	
リフト	7 台	
油圧ショベル	1 台	
合計		14台

主な処理施設

名称	内容	備考
混合施設	受け入れた原料を副資材と混合してたい肥化に適した状態にする。	屋内型コンクリート仕様
一次発酵施設	通気設備の整った槽に混合した原料を投入します。通気により強制発酵を行い、リサイクルマシンで攪拌を繰り返します。約1か月間の発酵管理を行います。	屋内型コンクリート仕様 2m×3m×50mのコンクリート仕様を10レーンで構成しており、発酵槽下部から24時間体制で通気を行っています。発酵槽上部は、リサイクルマシン（4機）が稼働しており、たい肥を攪拌する仕組みになっています。
熟成施設	堆積方式による二次発酵管理を行います。ホイローダーによる天地返しを繰り返し、約4か月の熟成期間をようします。	屋内型コンクリート仕様 通気設備完備 (2967㎡)
製品梱包施設	完熟したたい肥を粒度選別し、袋に詰め出荷します。	粒度選別機 13mm 15mm 梱包機 200 400 フレコン詰め設備
炭化設備	完熟したたい肥を粒度選別し、袋に詰め出荷します。副資材を取り除いたものを炭化します。	ロータリーキルン方式による炭化設備 1000kg/時間

III. 認証・登録の対象組織・活動

登録組織名：株式会社白滝有機産業
対象事業所：工場
活 動：産業廃棄物処分業（中間処理）、肥料製造・販売業

IV. 事業の紹介

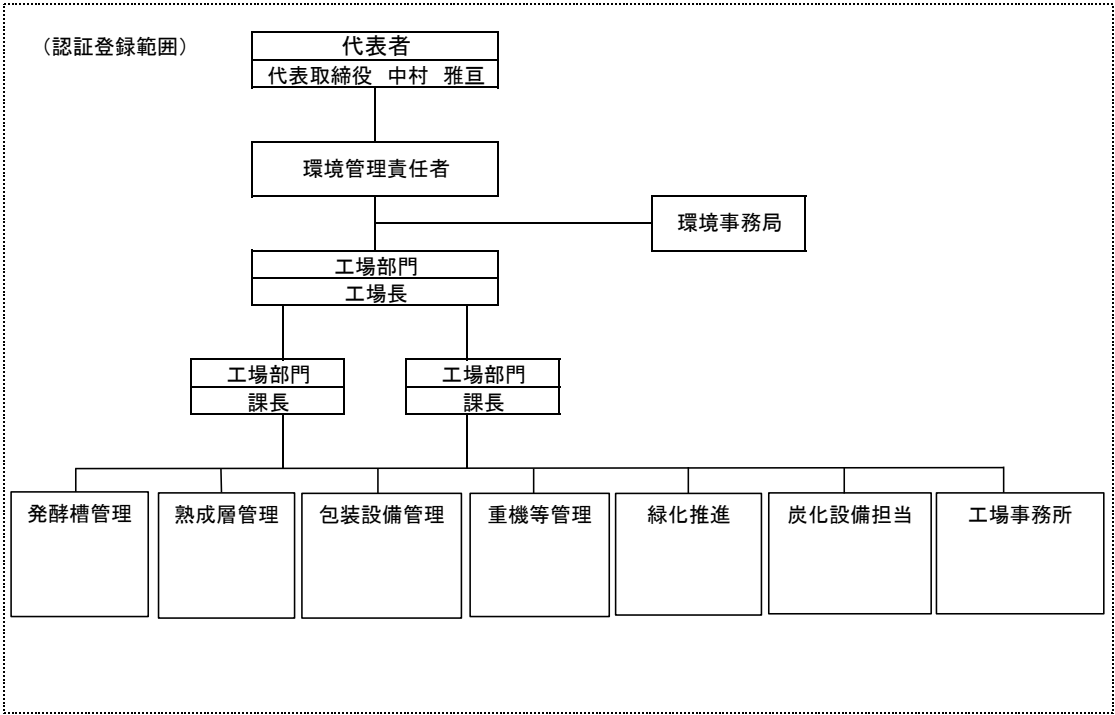


外熱式のロータリーキルン(回転炉)で、
エネルギー自立運転が可能。

エネルギー自立型炭化装置といわれ、従来、エネルギー利用が
困難であった水分の多い有機性廃棄物のエネルギー利用を可能
にし、CO2排出量を削減できる画期的な技術です。

V. 環境経営組織図及び役割・責任・権限表

更新日：2023年7月21日



	役割・責任・権限
代表者(社長)	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 ・環境管理責任者を任命 ・経営の課題とチャンスの整理、明確化 ・環境経営方針の策定・見直し ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し、指示 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
工場部門長	・環境経営計画の審議 ・環境活動実績の確認・評価
部門長	・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・時部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 ・試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

Ⅵ. 許可の内容

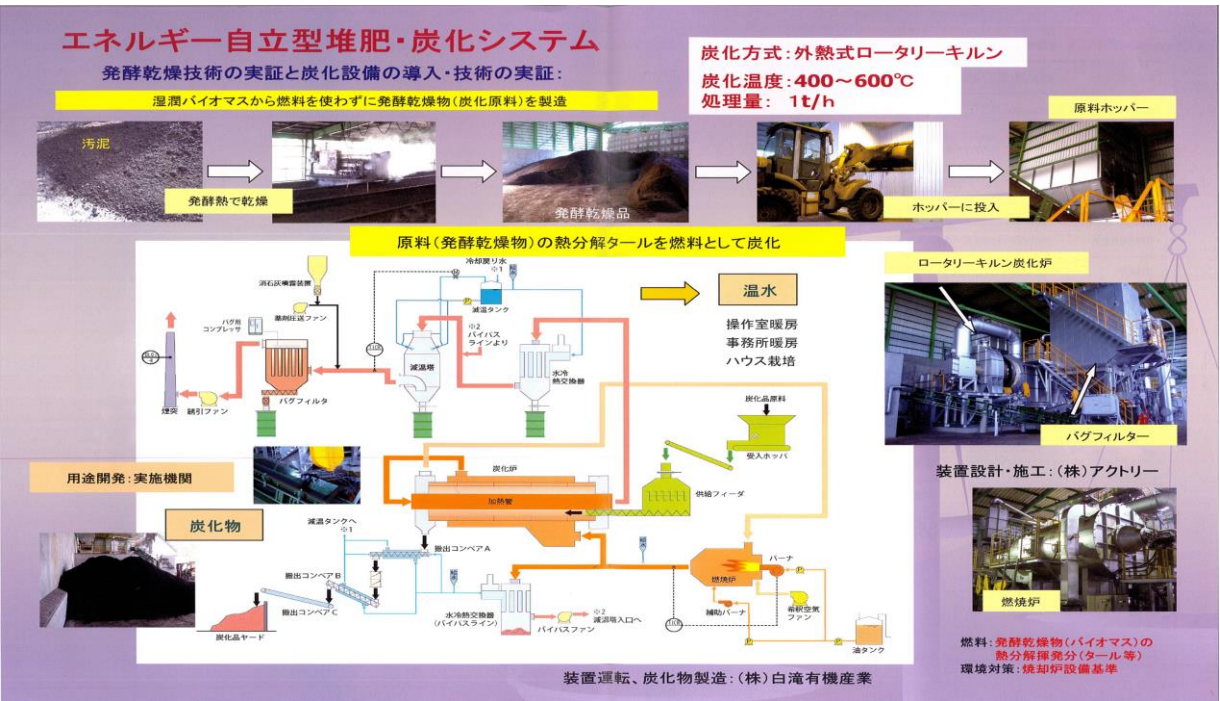
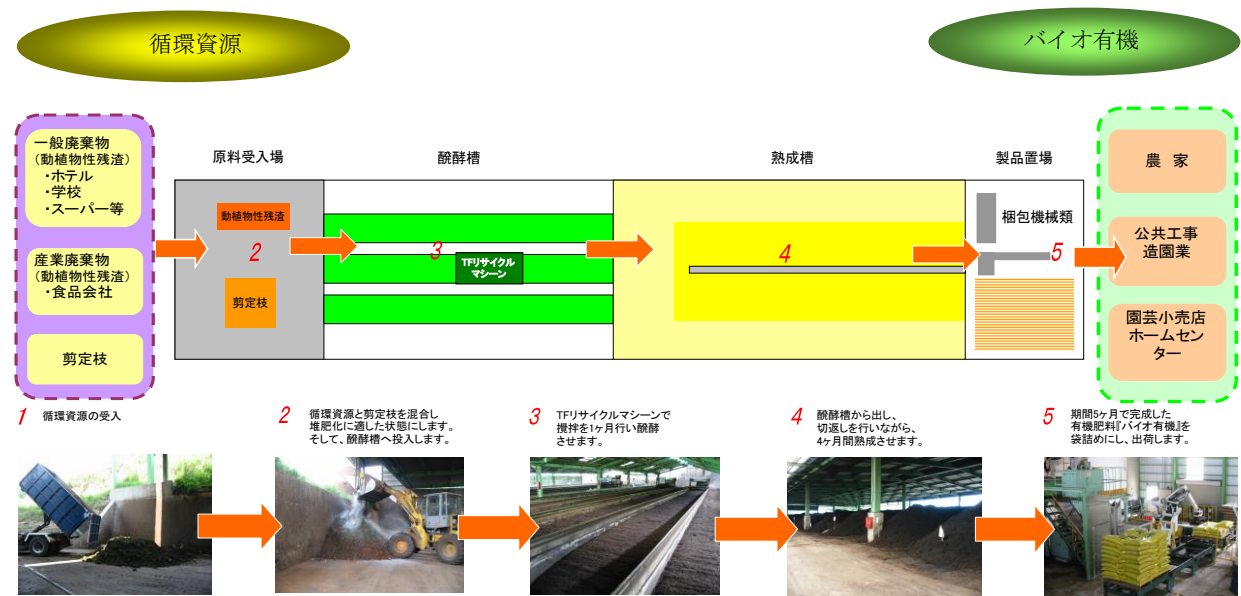
産業廃棄物収集運搬業許可の内容

許可区域	許可番号	許可年月日	許可有効年月日	積替保管	廃棄物の種類
岡山県	第03309009920号	令和4年7月3日	令和9年7月2日	無	燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、木くず 動植物性残さ、動物のふん尿
兵庫県	第02806009920号	令和4年6月28日	令和9年6月27日	無	汚泥、動植物性残さ

産業廃棄物処分許可の内容

許可区域	許可番号	許可年月日	許可有効年月日	事業の範囲	廃棄物の種類
岡山県	第03329009920号	令和4年7月6日	令和11年7月2日	中間処理 (発酵による肥料の製造、発酵乾燥・焼却(炭化)による炭化物の製造)	燃え殻 汚泥 廃油 廃酸 木くず 動植物性残さ 動物のふん尿
					○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

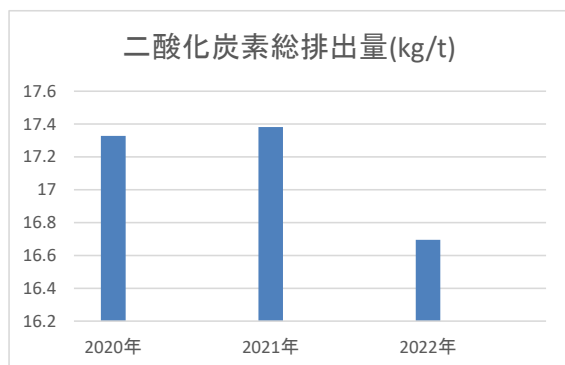
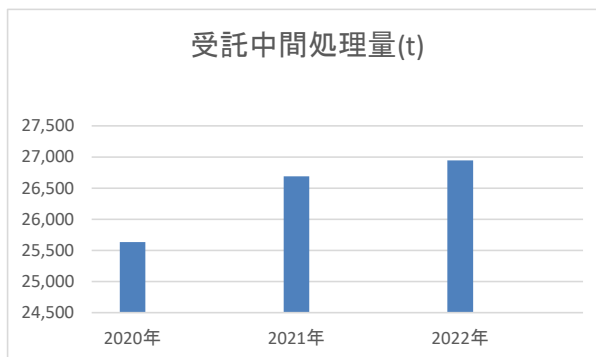
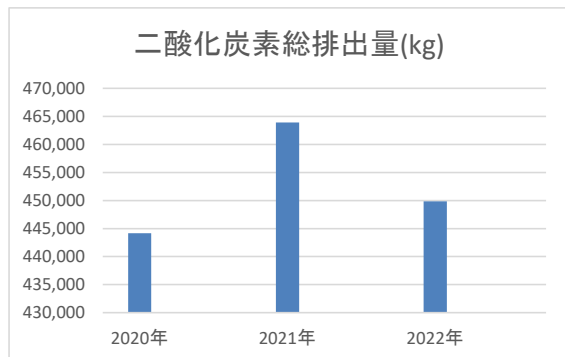
Ⅶ. 廃棄物処理フロー



Ⅷ. 主な環境負荷の実績

項 目	単位	2020年	2021年	2022年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	444,184	463,919	449,842
受託収集運搬量	トン	0	0	0
受託中間処理量	トン	25,635	26,689	26,945
受託最終処分量	トン	0	0	0
廃棄物排出量	kg	110,340	107,586	108,448
一般廃棄物排出量	kg	19,360	28,986	22,768
産業廃棄物排出量	kg	90,980	78,600	85,680
水使用量	m ³	2,395	1,447	1,225

※二酸化炭素排出係数 0.334 kg-CO₂/kWh 関西電力の2018年度の実績値(調整後)を使用

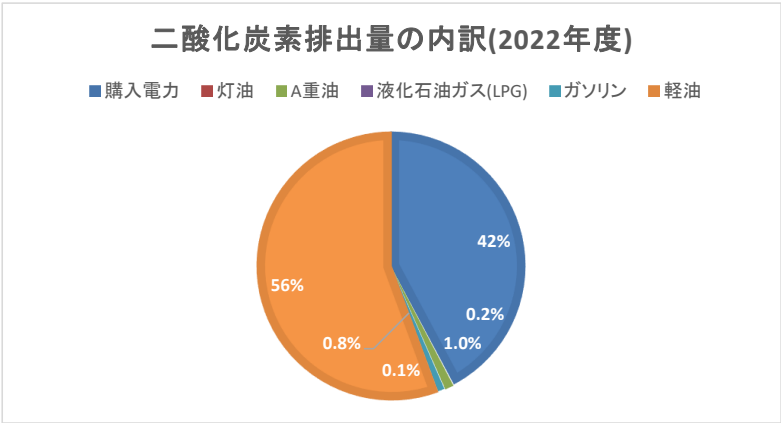


※受託中間処理量当たりの二酸化炭素排出量

IX. 環境経営目標及びその実績

項 目		年 度	基準値	2022年		評価	2023年	2024年
				(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減	kg-CO2		192,212	190,290	189,936	○	188,367	186,445
	kw		575,484	569,729	568,672	○	563,974	558,219
	基準年度比		2021年	99%	99%		98%	97%
A重油による二酸化炭素削減	kg-CO2		7,409	7,335	4,688	○	7,261	7,187
	L		2,734	2,707	1,730	○	2,679	2,652
	基準年度比		2021年	99%	63%		98%	97%
灯油による二酸化炭素削減	kg-CO2		1,485	1,470	847	○	1,455	1,440
	L		596	590	340	○	584	579
	基準年度比		2021年	99%	57%		98%	97%
LPGによる二酸化炭素削減	kg-CO2		446	442	430	○	437	433
	m ³		149	147	143	○	146	144
	基準年度比		2021年	99%	96%		98%	97%
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO2		262,367	259,744	253,941	○	257,120	254,496
	ℓ		101,802	100,784	98,592	○	99,766	98,748
	基準年度比		2021年	99%	97%		98%	97%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2		463,919	459,280	449,842	○	454,641	450,002
一般廃棄物の削減	kg		76	75	68	○	74	74
	基準年度比		2021年	99%	89%		98%	97%
産業廃棄物の削減	kg		78,600	77,814	85,680	×	77,028	76,242
	基準年度比		2021年	99%	109%		98%	97%
受託廃棄物のリサイクル率の向上	%		100%	100%	100%	○	100%	100%
	基準年度比		2021年	100%	100%		100%	100%
水道水の削減	m ³		1,447	1,433	1,225	○	1,418	1,404
	基準年度比		2021年	99%	85%	○	98%	97%
環境に配慮した製品の販売促進	t		11,262	11,375	8,964	×	11,487	11,600
	基準年度比		2021年	101%	80%		102%	103%
課題を解決しチャンスを活かす取組	実施					○		
	基準年度比							

※1ここに記載された一般廃棄物の削減の量は焼却場に持ち込まれた物のみ。その為、主な環境負荷の実績の値とは異なる。
※2化学物質の使用はありません。

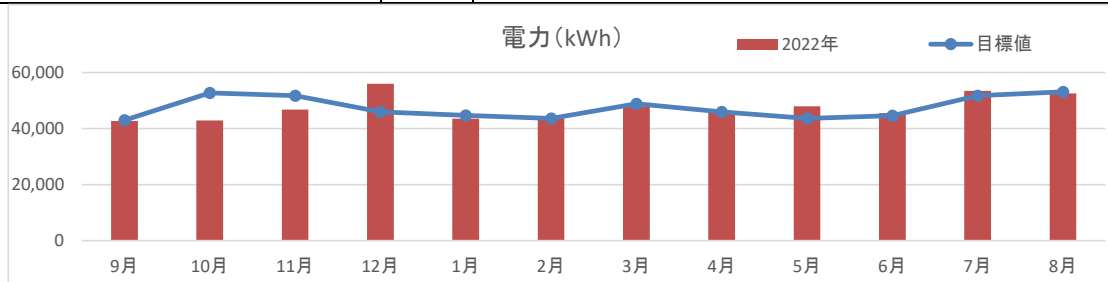


X. 環境経営計画の取組結果とその評価

数値目標: ○達成 ×未達成

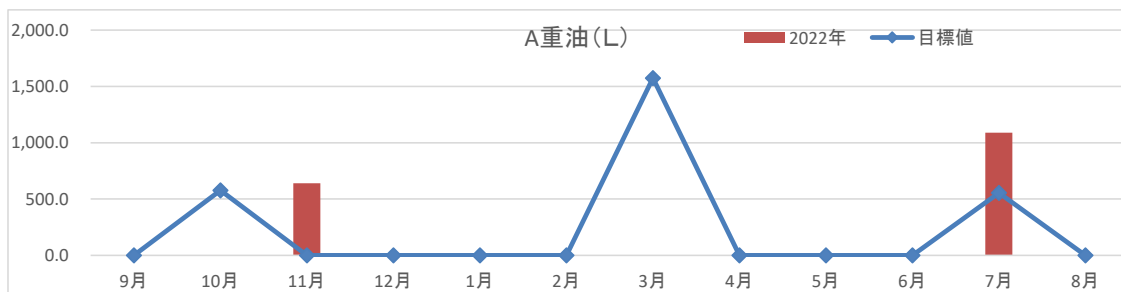
活動: ◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	基準年度との炭化炉の稼働日数の違いや、エアレーションのプロアを増やしたことにより目標未達となっている月もある。しかし累計としては目標を達成することができているため、今後も節電に取り組んでいく。
・空調温度の適正化(冷房28℃ 暖房20℃)	○	
・設備機器の空運転防止	△	
・未使用箇所の消灯	○	



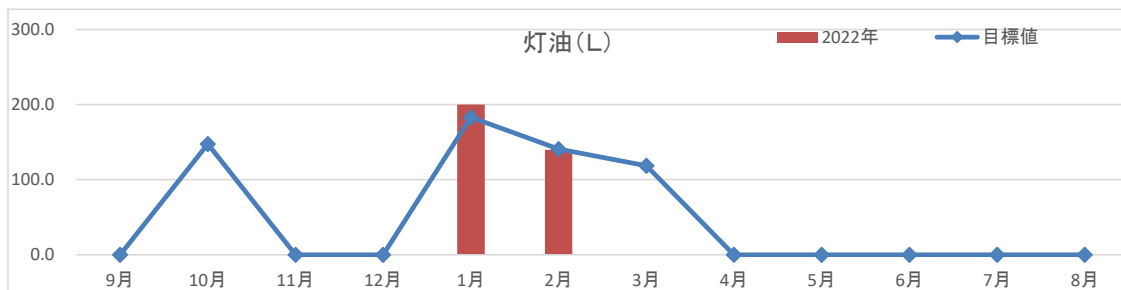
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	合計
目標値	42,980	52,767	51,773	46,005	44,681	43,632	48,809	45,972	43,601	44,649	51,746	53,114	569,729
2022年	42,740	42,924	46,750	56,005	43,504	43,589	47,796	45,864	47,985	45,539	53,460	52,516	568,672

A重油による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	A重油の使用は、炭化炉の年間稼働日数により大きく変化する。来年度も目標達成となるよう、引き続き左記活動に取り組んでいきたい。
・節約ステッカーの掲示	○	



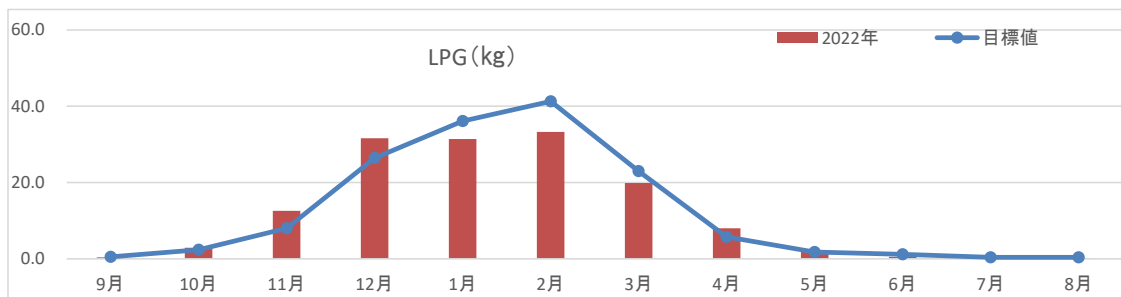
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	合計
目標値	0.0	578.2	0.0	0.0	0.0	0.0	1,574.1	0.0	0.0	0.0	554.4	0.0	2,706.7
2022年	0.0	0.0	640.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1,090.0	0.0	1,730.0

灯油による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	灯油は主に洗車機の凍結防止と温水利用に利用している。冬季の利用により目標未達の月もあったが、全体としては目標達成している。来年度も引き続き取り組んでいきたい。
・気温管理による暖房制限	○	
・不要時消火	○	



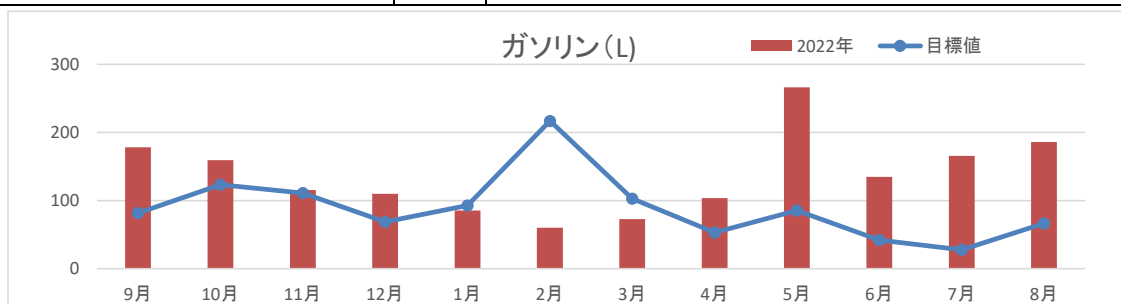
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	合計
目標値	0.0	147.5	0.0	0.0	183.2	141.0	118.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	590.4
2022年	0.0	0.0	0.0	0.0	200.0	140.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	340.0

LPGによる二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	主に冬季におけるシャワー手洗い等での温水利用が増えたため、上半期での目標未達が目立つ。全体としては目標達成しているが、来年度も引き続き左記活動に取り組む。
・設備の空運転防止	○	

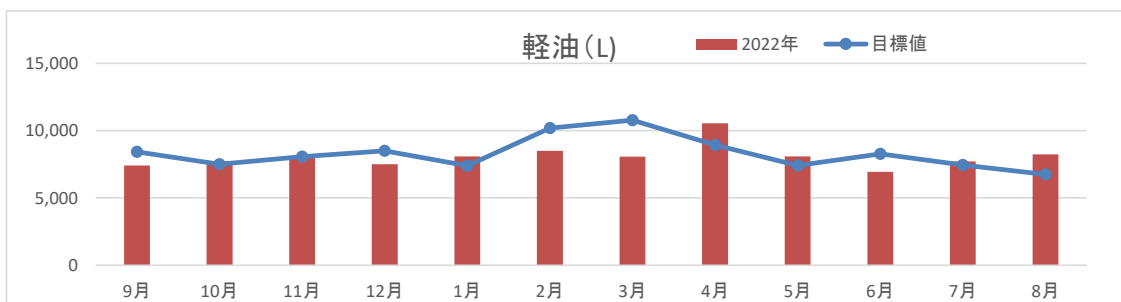


	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	合計
目標値	0.5	2.4	8.0	26.4	36.1	41.3	23.0	5.7	1.8	1.2	0.4	0.4	147.2
2022年	0.4	2.9	12.6	31.6	31.4	33.3	19.9	8.0	2.3	0.5	0.2	0.1	143.2

自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	社用車を年間で2台増やし、また利用機会も増えたため、月次評価で未達となる月も多かったが、全体的には目標達成となった。アイドリングストップ、適正な車両の整備を行うなどして来年度も引き続き目標達成に向け取り組んでいきたい。
・アイドリングストップ	○	
・適正な車両の整備	○	

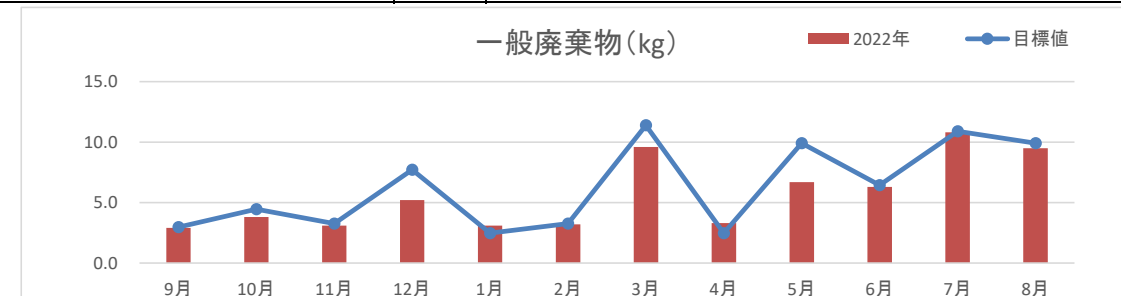


	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	合計
目標値	82	123	111	69	93	217	103	53	86	42	28	66	1,072
2022年	178	159	116	110	85	60	73	104	266	135	166	186	1,637



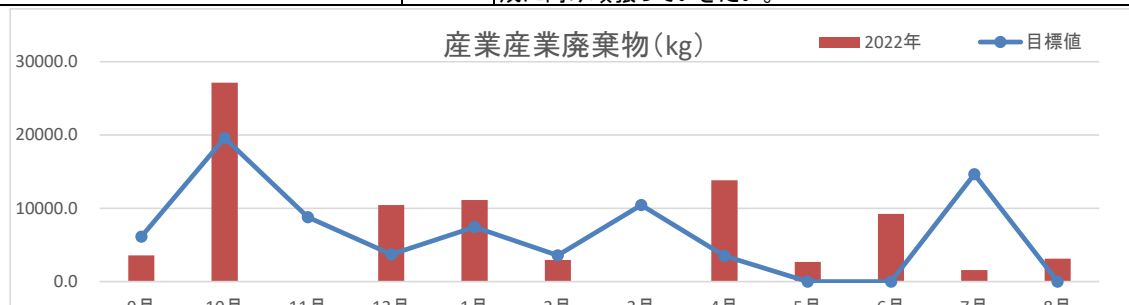
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	合計
目標値	8,426	7,502	8,077	8,510	7,398	10,189	10,778	8,936	7,404	8,283	7,459	6,749	99,712
2022年	7,407	7,722	8,132	7,511	8,086	8,507	8,073	10,540	8,084	6,943	7,708	8,241	96,954

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	ゴミの分別、梱包材の再利用などの活動を徹底し、目標を達成できた。今後も引き続き取り組みを行う。
・分別の徹底	○	
・シュレッダー廃紙のリサイクル化	○	
・帳票見直しによる印刷物の削減	○	
・梱包材の再利用	○	



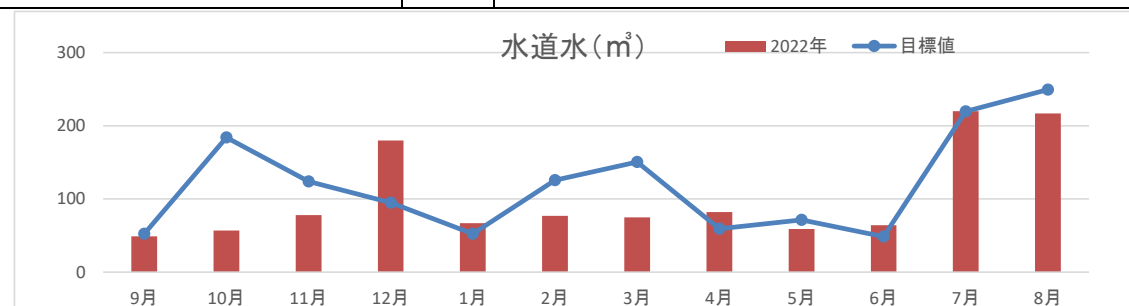
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	合計
目標値	3.0	4.5	3.3	7.7	2.5	3.3	11.4	2.5	9.9	6.4	10.9	9.9	75.1
2022年	2.9	3.8	3.1	5.2	3.1	3.2	9.6	3.3	6.7	6.3	10.8	9.5	67.5

産業廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	×	受入搬入量の増加に伴い、搬出する産業廃棄物も増えており、目標数値の達成は難しいところもあるが、来年度も引き続き左記活動を徹底し、目標達成に向け頑張っていきたい。
・選別によるリサイクルの推進	○	



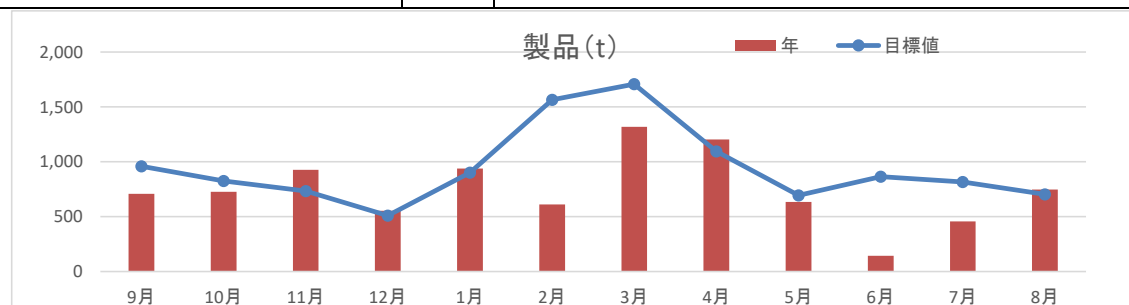
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	合計
目標値	6118.2	19592.1	8791.2	3722.4	7434.9	3583.8	10434.6	3504.6	0.0	0.0	14632.2	0.0	77814.0
2022年	3590.0	27150.0	0.0	10450.0	11140.0	2950.0	0.0	13810.0	2660.0	9230.0	1560.0	3140.0	85680.0

水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	基準年度との炭化炉稼働期間の違いに伴い、冷却水として使用する水道水の使用量にも変化があった。目標達成できているので、来年度も引き続き節水活動に取り組んでいきたい。
・節水意識の向上	○	
・樹木水やりの効率化	○	



	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	合計
目標値	52	184	124	95	52	126	150	59	71	49	220	249	1,433
2022年	49	57	78	180	67	77	75	82	59	64	220	217	1,225

環境に配慮した製品の販売促進	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
・市場・顧客情報の調査	○	海外向けの出荷量に大きく影響される。海外出荷の時期のずれにより目標未達が目立っている。
・積極的な営業活動	○	
・自社農場による利用の推進	○	



	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	合計
目標値	958	825	734	509	902	1,564	1,707	1,095	694	865	817	704	11,375
年	707	726	926	553	939	611	1,318	1,202	634	144	457	746	8,964

課題を解決しチャンスを活かす取組	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
・近隣自治会との交流会	○	年2回堆肥の配布を行い、また自治会との交流会も行うことができた。自治会との連絡交換も頻繁に行い近隣住民の不安解消に務めることができた。
・発酵促進し、好気発酵	○	
・エアレーション水分調整	○	
・発酵管理	○	

XI. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	収集運搬業、中間処理業、産業廃棄物（廃プラ、金属くず等）
肥料取締法	肥料取締法第7条の規定に基づき登録 農林水産大臣
食品リサイクル法	再生利用事業内容の提示および料金の届出・公示
浄化槽法	浄化槽
消防法（危険物）	消火器及び消火栓の定期点検、火災報知機の設置
大気汚染防止法	ばい煙量およびばい煙濃度の測定記録および保管
ダイオキシン類対策特別措置法	炭化炉
振動規制法	炭化炉に付随した送風機・圧縮機
騒音規制法	炭化炉に付随した送風機・圧縮機
フロン排出抑制法	業務用空調機の簡易点検の実施、記録、記録の保管

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

XII. 緊急事態対応訓練

緊急事態の想定： 火災の発生	
■実施日： 2023年5月12日	■実施場所：工場
■参加者： 山本光、山本昌、原田、リー	■実施内容： ・通報訓練、消火訓練、避難訓練
■評価： 年1回であるが、手順良くできた	手順書の変更の必要性 ☐ あり ☒ なし
■実施状況の様子	
	

XⅢ. 代表者による全体の評価と見直し・指示

代表取締役 中村 雅亘

実施日：2023年9月12日

搬入量の増加に伴い、軽油・電力の使用量が増え、目標未達部分があった。
しかし搬入量増加に伴うものとして問題視はしていない。
来年度以降も搬入量の増加を目指していきたい。

環境経営方針

環境経営目標・計画

実施体制

☒ 変更なし

☒ 変更なし

☒ 変更なし

☐ 変更あり

☐ 変更あり 実績を踏まえて見直す

☐ 変更あり

XⅣ. これまでの環境活動の紹介

2010年 炭化設備導入



2013年 消火訓練の様子



2014年 美化活動の様子



2017年 消火訓練の様子



2018年 美化活動の様子



2019年 消火訓練の様子



2020年 消火訓練の様子



2021年 消火訓練の様子



2022年 消火訓練の様子



XⅤ. 編集後記

受託及び製品の販売実績が安定して目標を達成する状況となっており、その状況に伴う、化石燃料使用状況を更に精度の高い取り組みとして、原単位による評価を検討する。